

サイクリルオリエンテering

小島史夫

書記にオリエンテeringの原稿を書けと言われた。一年も前のことを詳しく覚えていられる訳がない。何とか思い出そうと努力はしてみたが……

我が、T・I・T・Cの恒例のサイクリルオリエンテeringは、冬枯らしの吹く中、一九七五

年一月十九日、川崎市を中心に挙行された。

競技区域は、地図を見ればわかる様に、走ってみて奥に変化に富んでいる。田地の中の舗装道路を走っていたかと思うと、山の中の泥道を走っていたりする。その上、坂道もかなりのものがある。

さて、競技開始である。STARTは田園都市線根ヶ谷駅、持ち時間確か二時間半で、GOALの二四六号線三子橋下を目指すのである。自転車は、藤原から借りた黄色のあの□マリーワの自転車であるが、あの自転車はサドルの調子が悪い。座金が馬鹿になっっているのだろう。(藤原はこのサドルに愛着を持っているみたいだ。一年も経ってもまだ座さぬ所を見ると、何か深い理由でもあるのだろうか。)

私は、点数は低くとも密度の高い所を回ろうとコースを選んだ。ところが最初のポイントでつまづいてしまった。ポイントを見つけていることが出来ず、その上ぬかるみで転倒してしまっただのである。ここでもうしいじけてしまっただが、次のポイントからは劇とスムーズに回る事が出来た。川崎にお

ける都市化の波は激しく、地図にはい所が
てく。武蔵野線根々谷貨物ターミナルもそ
の一方で、トンネルをくぐって反対側まで行
かねばならず、苦情が南かれた。

神社の階段教を教える所で岩根に会った。

彼は当時、あの油のべったりついたフロント
バックリをつけて走っていた。この数ヶ月後、
彼の自転車は盗まれたが、不思議にも戻って
きた。しかしフロントバックリは帰ってこなか
った。彼は、あまりにも素晴らしいバックリだ
ったので犯人が手放せなかったのだらうと言
っているが、あまりにもイモナギるのですく
まどばに捨てられたのだらうというのが大勢
である。彼と別れ、再びベルギーをこぐ。二回
示をこえ美しな丘の國地へ行くと日は野に空

った。二二の問題は、歩道橋の完成年月日を記せ
といふのであるが、目的の歩道橋が見つからず、

彼はここに教十分いるといふ。しかし、この日の
歩道橋の完成年月日が、皆同じなのてたぶん同じ
だらうといふこと、と女協、次のポイントへと進む
産院のポイントを回った所で土才さんと会う。残
り時間も少なく、急いで回ろうとするが、途中、
長尾での坂(十教%)はあつたらうし、津田山公園
より津田山駅へ下る道の悪さ(降りて押しした)な
ど、難路?悪路?が行く手をはげむ。しかし持ち
時間を十分残して無事到着。しるこを食べる。
得点は二七五点で中川さんと同点、じゃんけん
の結果、中川さんが優勝、私は二位となった。記
念撮影をして、今年度のサイクリルオリエンテーリ
ングは終了した。